

【令和7年度 第2回 U-12九州小学生ハンドボール大会（開催県：福岡県）】

競技上の注意と確認事項

1 競技規則

本大会は、令和7年度（公財）日本ハンドボール協会「競技規則」および「Jクイックハンドボール競技規則」（U-12）によって行う。

2 競技会場

(1) 競技会場・コートの広さは、以下のとおりとする。

○久留米アリーナ（36m×20m）2面

(2) 別紙「会場使用上の注意」（福岡県ハンドボール協会 小学生部より）を遵守して使用する。

3 種別及び参加人数

参加人数（ベンチ入り）は、監督1名・役員4名以内・選手20名以内の合計「25名」以内とする。

4 競技方法

競技方法は、予選リーグ戦の方式から、順位決定トーナメント戦とする。予選リーグで同点の場合は、引き分けとする。

順位決定トーナメント戦で同点の場合は、決勝戦のみ後半終了5分後に延長戦を行う。

「第1延長（前半3分－休憩・コートチェンジ1分－後半3分）→7mTC（3名）」により、勝敗を決定する。決勝戦以外のトーナメント戦で同点の場合は、「7mTC（3名）」により、勝敗を決定する。予選リーグ戦の順位決定は、勝点方式とし、以下の通りとする。予選リーグ及び決勝リーグは勝点方式とする。

【「勝利：2点」、「引き分け：1点」、「敗戦：0点」】予選リーグの順位決定は、下記のとおりとする。

- ① 勝ち点の多いチームを上位とする。
- ② ①で決定できない場合は、チーム間の対戦結果で勝ちチームを上位とする。
- ③ ②で決定できない場合は、「総得失点差が大きいチーム」を上位とする。
- ④ ③で決定できない場合は、「総得点の多いチーム」を上位とする。
- ⑤ ④で決定できない場合は、「総失点の少ないチーム」を上位とする。
- ⑥ ⑤で決定できない場合は、「抽選」により決定する。

5 参加資格

参加資格は、「実施要項 9 参加資格」のとおりとする。

臨時トレーナーについては、別に定める。（16 臨時トレーナーを参照）

欠場があった場合の補充方法は「①開催県②次開催県の順に2チーム目が出場できる」とする。

6 競技日程・時間

(1) 競技日程は、プログラムのとおりで、競技時間は、下記のとおりとする。（12 競技方法を参照）予選リーグ戦「前半12分－休憩6分－後半12分」

順位決定トーナメント戦「前半15分－休憩10分－後半15分」

- (2) 競技時間は、加算式の電光掲示板で表示する。
- (3) 競技終了やチームタイムアウトの合図は、ブザー・ホーン、または笛で行う。
- (4) ①退場者の番号と入場時間は、記録席上に記録用紙で表示する。
②入場の判断はチームの責任である。記録席から合図することではなく、問い合わせられても回答しない。

7 大会使用球

(公財)日本ハンドボール協会検定1号球および0号球を使用する。

○男子 両日「モルテン」 ○女子 両日「モルテン」

8 トス・ユニフォーム

- (1) トスは、ユニフォーム確認の際に記録席前で行う。立ち合いは、チーム役員・選手のいずれでもよい。その際、チーム役員の服装（色）及び臨時トレーナーの有無についても確認する。
- (2) ユニフォームの確認について、第1試合は、記録席前で試合開始30分前に行う。以降の試合は、前試合のハーフタイムで行う。
確認の際には、試合に着用する全ての種類のユニフォームを持参する。
希望調整がつかない場合は、組合せ表によるチーム番号の大きいチームが変更する。
(男子) 1福岡・2大分・3佐賀・4鹿児島・5沖縄・6宮崎・7熊本・8長崎
(女子) 1沖縄・2長崎・3熊本・4福岡S・5大分・6福岡・7鹿児島・8宮崎
- (3) ユニフォームについては、下記のとおりとする。条件に満たない場合は当て布等で覆わなければならない。その色はユニフォームと同色でなくてもよいが、チーム全員が同色とし、同じデザインにする。
 - ①番号の大きさ（高さ）は、胸10cm以上・背20cm以上とする。
 - ②基調色として、半分以上が同色でなければならない。例えば、左右上下対称色を用いたものは認めない。
 - ③メーカーのロゴは、20cm以内の目立たないものとする。サポーター等も同様とする。
 - ④試合中にユニフォームが破損したり、血液が付着したりして、競技を続行できない時は、別のユニフォームに着替えなければならない。その場合は、同番号でなく異なる番号でも問題ない。また、交代地域にいる別のプレーヤーのユニフォームと交換することも許される。
 - ⑤チームは、ユニフォームとして「シャツ・パンツ・ソックス」の色をそれぞれ統一すること。ソックスは、色が揃っていればよく、メーカーのロゴなどは問わない。
- (4) ゴールキーパー
 - ①チームで同色とする。
 - ②コートプレーヤーがゴールキーパーに代わる場合は、登録された同じ番号でなければならない。併せて、登録されたゴールキーパーと同色のユニフォームを着用することは許される。
ビブスを着用する場合は、トス時に申し出を行い、競技役員（TO・審判員）や対戦チームに知らせる。
- (5) 身につけられるものについて
 - ①短パンツの下に着用するサイクリングパンツやウォームパンツ（アンダーウエア）は、短パンツの基調色が同色とし、チームで統一していれば着用できる。
 - ②ユニフォームの外にアンダーウェアが出る場合があっても、立っている状態で見えなければ正さなくてよい。
 - ③長袖のアンダーシャツ・アームスリーブ・ロングスリーブなどは、ユニフォームに使用されている

色であれば着用できる。

- ④ふくらはぎのコンプレッション(加圧)サポーターは、靴下と同色であれば着用できる。
- ⑤複数の部位を覆うサポーター等やメーカーのロゴが20cm²以上ものは、着用を認められない。
- ⑥金具入り等、敵味方を問わず他の選手に危害を与えるものについては、その着用を認められない。
- ⑦眼鏡及びスポーツゴーグル等を使用する際には、固定バンドの装着を必要とする。ただし、金属製のフレーム等については使用できない。
- ⑧詳細は、JHAホームページ「JHA保護を目的とした装具」を参照すること。

9 登録証・公認資格証とチーム役員・選手の確認

- (1) 事前に所定の手続きを完了した登録証のあるチーム役員・選手のみが競技に参加・出場することができる。
- (2) 交代地域には、チーム責任者（監督）1名を含むチーム役員4名以内、選手20名以内の合計25名以内が入ることができる。
- (3) チーム役員・選手の変更については、2月16日（月）代表者会議での直接の申し出の後、変更申請を提出した場合を最終完了したことで決定する。変更があった場合は、代表者会議の際に周知する。
なお、すべての「変更一覧」は、会場にてプログラムとともに配付する。
- (4) ①トスの際には、TOに登録証を提出する。不備（写真添付なし等）があった場合は、試合に出場できない。チーム役員は、公認資格証も提出する。（※努力事項とする。）
②TOが、試合前に交代地域にてチーム役員・選手及び登録証を確認する。
試合中は、TOが登録証を管理し、試合終了後にTOから両チーム代表者に返却される。
③失格したチーム役員・選手、または、裁定委員会に提訴されるチーム役員・選手には、その場で返却しない。
- (5) チーム役員は、試合中に大会主催者が準備した「A・B・C・D・Eカード」を着用し、試合終了後に返却する。チーム責任者（監督）は、「Aカード」を着用する。

10 公式記録用紙

- (1) 記録は、（公財）日本ハンドボール協会「公式記録用紙」（役員5名・選手20名の記載）に準ずる用紙を使用する。
- (2) チーム責任者は、試合開始前に公式記録用紙に記載されている「役員氏名・選手氏名・背番号」など、責任を持って確認し、サインをする。
- (3) 公式記録用紙に記入されている者だけが、交代地域に入ることができる。

11 交代地域

☆交代地域：「3.5mラインを始点とし、それぞれのアウターゴールラインから8mの位置を終点とする」ルールは、上記記載の通りだが、ベンチの設営上、「アウターゴールラインに近い椅子席の隣」を終点とする。

- (1) 各チームのボール等の用具類は、競技開始前にケース等に収納して交代地域内にて管理する。競技開始後は、ボールに触れることを含めてボールの使用を禁止する。
- (2) 飲料水は、飲み口の細い「個人の容器」を使用し、コップの使用を禁止する。感染予防対策として、大型ペットボトルの回し飲みも禁止する。
- (3) 交代地域では、通信機器の使用を認める。詳細は、JHAホームページ「交代地域に持ち込み可能な技術的機器に関するガイドライン」を参照する。
- (4) 試合中、選手が交代地域内で簡単な準備運動をすることは認める。

ただし、ボールの使用やコート内への指示・応援、立位のままで観戦することは不可とする。

(5) チーム役員は、相手チームのコートプレーヤーと異色の服装でなければならない。トスの際、ユニフォームの色が確定した後に、役員の服装の色を確認する。

(6) チーム役員は、原則として座っていなければならない。

ただし、チーム役員1名のみが、戦術的な指示や治療を目的として、交代地域の範囲内で動くことは許される。

(7) 観客席等から選手への指示や審判のジャッジに対する暴言等は厳禁とする。

(8) チーム役員が、試合時にマスクを着用することは、任意とする。

12 チームタイムアウト

(1) 初日の予選リーグでは、チームタイムアウトを「前半・後半を通して1回のみ」請求できる。

二日目の順位決定トーナメント戦では、全試合とも1試合で前半1回・後半1回の合計2回の請求ができる。また、延長戦では、請求できない。

(2) チームタイムアウト請求カード（グリーンカード）は、チーム役員だけが提出することができる。

請求する場合は、記録席まで持参する。提出するために、コーチングエリア（3.5m）を越えたらグリーンカードを提出しなければならず、躊躇することは許されない。ただし、請求および受け取りと判定のタイミングにより、チームタイムアウトにならない時があるので、その場合は、グリーンカードをチームに戻す。

(3) グリーンカードは、常にベンチに置いておかなければならない。請求する時のみ持つことが許される。

(4) グリーンカードは、TOが直接受け取ってよい。

13 休憩時間（ハーフタイム）

(1) 休憩時間のコートは、次試合を行うチームが練習として使用して良い。

(2) 練習で使用する時間は、予選リーグ戦は「5分」とし、順位決定トーナメント戦は「9分」とする。残りの時間は、後半に向けたコート整備の時間とする。タイマーは、「減算表示」とし、残り1分時に、ブザーにより通知をする。

14 テクニカルオフィシャル（マッチオフィシャル：MO、テクニカルデレゲート：TD）、裁定委員会

(1) 本大会は、各試合にMO兼TD1名とTD1名の2名を配置する。MO・TDは、各試合に立ち会い、各試合を円滑に運営するため、審判員・全競技役員・補助員と協力して試合を管理する。

(2) 本大会に裁定委員会を設置する。委員は、競技委員長・競技副委員長（競技委員）・審判長・総務委員長とする。なお、必要に応じて関係者を同席させることがある。裁定しなければならない事案が発生した場合は、当日中に裁定して関係者に通知する。

15 次の試合のチーム役員・選手のフロアへの入場

次試合のチーム役員・選手は、前試合が終了し、両チームの役員・選手がコートアウトし、フロアに入場する。前試合が行われているのに、アップや試合に備えて、コートサイドに入って準備をしたり、観戦したりすることがないように留意する。

16 臨時トレーナー

(1) 臨時トレーナーとは、役員登録をしていない公的資格を有するトレーナーを指す。

トスの際には、必ずMO・TDに申告する。席は、交代地域から離れた場所に設置する。

(2) 臨時トレーナーは、交代地域やコート内に立ち入ることや応援・指示はできず、自席での対応

のみとする。選手は、一時的に交代地域から許可なく離れ、臨時トレーナー席で治療等を受けることができる。

(3) M0・T Dが、試合開始前にトレーナーである資格証の提示を求める場合があるので準備しておく。

17 表彰

すべての試合が終了し、男女の表彰式（閉会式）を行う。対象は、男女とも上位の4チームとする。

18 感染症対策

- (1) 大会期間中は、手洗い・手指消毒・うがい等を積極的に行い、健康に十分配慮する。スク着用は、任意とする。
- (2) 自己管理・感染症予防のためにホテル滞在中は、各室でも個人的に感染予防に積極的に取り組む。
- (3) 大会前から練習中はもとより、生活全般で体調管理に留意する。
- (4) チーム役員は、感染症対策の責任者として、移動行程や会場での感染症対策の他、チーム関係者から発熱者 や体調不良者がいた場合は、責任者の管理下でホテル待機、医療機関、検査機関の受診等の業務に対応する。

19 危機管理

各チーム・各個人で危機管理意識を高く持ち、各種の緊急事態に備える。

20 救護スタッフ

今大会は、大会本部が委嘱した医療スタッフが、会場に常駐しているので、健康面での不安などがあれば、必要に応じて相談すること。

21 試合の開始と終了

開始時は、選手全員が交代地域から横1列で入場して、あいさつをする。

試合終了時は、コート中央に横1列で並んであいさつをし、その後、相手チームと交差しながら挨拶を交わし、相手側交代地域で役員へのあいさつを行う。

22 入館・観客席

- (1) 今大会は、スポーツ競技活動を通した社会教育活動の一場面でもある。各チームの役員は、「競技上の注意」「会場使用上の注意」などを徹底させる。
- (2) 今大会は、有観客、応援可能として開催する。
- (3) チームの入館および退館の時刻や館内の滞留時間は、指定しない。ただし、第1試合の入館時刻は、開催地から発出される「会場使用上の注意」を参照する。
- (4) 競技会場内では、チームが使用した観客席などの清掃・美化作業を行う。

23 申込チームの欠場（辞退）の場合

- (1) 欠場（辞退）の場合の試合記録は、欠場（辞退）のチームの不戦敗とし、スコアは0-10とする。
- (2) 競技日程・試合開始時刻などは、原則として変更しない。

24 大会期間中に体調不良者がいた場合

- (1) 発熱・咳・咽頭痛などの症状を訴える役員・選手を確認した場合は、速やかに帰宅させるかホテルに待機させ、医療機関・発熱外来などに相談する。
- (2) 上記(1)の場合は、その後、チーム内の役員・選手の健康チェックをこまめに行う。